

宇宙惑星科学へ / 大気水圏科学へ / 地球人間圏科学へ / 固体地球科学へ / 地球生命科学へ / 地球惑星科学総合へ

| 氏名 | 所属機関 | 抱負(推薦の場合は推薦文) |
|----|------|---------------|
|----|------|---------------|

| 宇宙惑星科学 |                     |  |
|--------|---------------------|--|
| 中村 正人  | 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所   | 連合は現在国際化の動きを早めつつあります。この変革の時代に、日本の地球惑星科学の根幹を今一度確認し、新たな飛躍を遂げる力になりたいと思います。                              |
| 草野 完也  | 名古屋大学               | 学際的な視点から宇宙惑星科学の発展に努めたいと考えています。   |
| 横山 央明  | 東京大学                | JpGUの発展に少しでもお役に立てるよう努めたく思います。  |
| 田近 英一  | 東京大学                | これまで10年にわたり連合の広報普及委員会の委員長として、地球惑星科学の広報・普及に努めて参りました。今後も連合及び地球惑星科学の発展・振興のために、微力ながら尽力する所存です。            |
| 吉川 顕正  | 九州大学 国際宇宙天気科学教育センター | 専門は多圏間結合物理学、理論的手法が中心ですが、多点磁場ネットワーク観測網の運営にも携わっています。セクションボードに於いてはこれまでの経験を活かし、特に分野融合・国際展開の面で貢献していく所存です。 |

|        |                    |   |
|--------|--------------------|---|
| 小嶋 浩嗣  | 京都大学               | これまで代議員、セクションボードメンバーとして働いてまいりましたが、今後更に、自分の研究分野にとどまらず広く地球惑星科学全般の発展に貢献できるよう連合の運営に参画していきたいと思います。                 |
| 関 華奈子  | 名古屋大学              | 日本の宇宙科学が岐路にある中、中長期的に魅力ある宇宙惑星科学研究を生みだし続けられるよう、本セクションの国際化および長期的サイエンスビジョンの策定に、微力ながら貢献できればと考えております。               |
| 渡邊 誠一郎 | 名古屋大学              | 連合の発展に貢献したい。  |
| 橘 省吾   | 北海道大学大学院理学研究院      | JpGU ならびに宇宙惑星科学分野の発展に尽力したいと考えております。   |
| 倉本 圭   | 北海道大学              | 研究教育ネットワークの形成を通じた宇宙惑星科学の展開に貢献したいと思います。  |
| 笠羽 康正  | 東北大学大学院 理学研究科      | 笠羽康正氏は、地球と惑星、地上-衛星-探査機観測とモデル研究、固体と大気を横断包含するコミュニティビルディングの視座から、多くの科学活動を推進して欧米中に伍している、代議員に相応しい人物です。(筆頭推薦者 小原 隆博) |
| 中村 昭子  | 神戸大学大学院理学研究科       | JpGUの活動を通じて、地球惑星科学分野の将来、次世代のために尽力したいと思います。  |
| 佐々木 晶  | 大阪大学理学系研究科宇宙地球科学専攻 | 宇宙惑星科学のビジョンを再確認し、様々なレベルの国際協力や分野間の連携、それらを遂行できる人材の育成といった、課題に取り組みます。学生発表賞、ジャーナル(PEPS/EPS)の発展に尽力します。              |
| 高橋 幸弘  | 北海道大学              | アジアを含むグローバルな視点から世界の研究動向を把握し、大規模災害や気候変動等、人類が抱える地球規模の課題の解決に向けて、日本の地球惑星科学の一層の発展と国際化に貢献したいと思います。                  |

|         |                     |  |
|---------|---------------------|--|
| 長妻 努    | 情報通信研究機構            | PEPSの活動を軌道に乗せるとともに、AGUとの共催の成功に向け、微力ながらお手伝いできたらと思います。   |
| 小久保 英一郎 | 自然科学研究機構国立天文台理論研究部  | 小久保氏は、惑星形成という、地球惑星科学と天文学の橋渡しの領域で、活躍が著しい。連合の活動の国際化、広報普及にも貢献。(筆頭推薦者 佐々木 晶)                             |
| 能勢 正仁   | 京都大学大学院理学研究科        | 宇宙惑星科学セクションからの意見・視点を連合の運営へしっかり反映させていく所存です。   |
| 中村 卓司   | 情報・システム研究機構 国立極地研究所 | COSPARのC委員会(地球惑星超高層大気と標準大気)委員長、SCOSTEP理事などの立場から国際組織とのリエゾンとして、また大学共同利用機関である極地研の幹部としてJpGUIに貢献したいと考えます。 |

以上 18名

[>>宇宙惑星科学トップへ戻る](#)

| 氏名 | 所属機関 | 抱負(推薦の場合は推薦文) |
|----|------|---------------|
|----|------|---------------|

[>>トップへ戻る](#)

|        |                  |  |
|--------|------------------|--|
| 大気水圏科学 |                  |  |
| 鈴木 啓助  | 信州大学             | 日本地球惑星科学連合における水関連分野のプレゼンスはまだまだ弱いと感じています。日本地球惑星科学連合に水関連分野の声を届ける役割を果たしたいと思います。                         |
| 河宮 未知生 | 海洋研究開発機構         | 地球環境に関わる諸科学分野の成果を統合した地球システムモデルの開発に取り組んでおり、連合が掲げる分野間連携の理念に共鳴しています。連合の国際化に貢献します。                       |
| 山内 恭   | 国立極地研究所          | 大気科学・極域気候学研究に40年以上携わり、今、退職の身で、ジャーナル編集や北極研究プロジェクト(GRENE)まとめを担っています。今後の学問の方向性、研究のやり方など、考えていきたいと思っています。 |
| 川合 義美  | 国立研究開発法人海洋研究開発機構 | 私は数年間セクション幹事とプログラム委員を務めさせて頂いております。大会のあり方が変わる節目となりますが、お役に立てるよう尽力いたします。海洋学会とJpGUや他学協会との橋渡し役になればと思います。  |
| 津田 敏隆  | 京都大学生存圏研究所       | JpGUのさらなる発展に貢献したい。   |
| 楊 宗興   | 東京農工大学           | 楊教授は、昨年までの2年間陸水学会幹事長を勤め、現在、陸水学会学術幹事である。これまでもJpGUにも積極的に関わっており、適任である。(筆頭推薦者 熊谷 道夫)                     |
| 田中 賢治  | 京都大学             | 複雑化、強大化する自然災害や環境問題への対応において地球惑星科学の果たす役割は大きく、様々な学問分野の知見を総動員することが求められています。関連学協会間の連携のより一層の推進に引き続き尽力します。  |

|        |                 |   |
|--------|-----------------|---|
| 小野寺 真一 | 広島大学 大学院総合科学研究科 | 小野寺真一氏は、日本水文科学会、日本地下水学会の理事を務め、学際的な研究により水文学の発展に貢献しています。その経験から、水関連学会と近隣分野学会の関係強化やJpGUの発展への寄与が期待されます。(筆頭推薦者 谷口 真人)               |
| 近藤 豊   | 国立極地研究所         | 連合は、地球惑星科学分野の研究の中核的組織として大きく発展してきました。長年の研究・教育経験を基に、連合の大会・将来計画が多くの研究者にとって、より意義のあるものになるよう貢献していきます。                               |
| 安成 哲平  | 北海道大学 大学院工学研究院  | 米国研究経験を生かし、AGU等の地球科学団体とJpGUの国際連携強化に貢献したい。一人の若手研究者として、ポストク問題解決や若手育成のための活動を推進し、直接若手会員の声を上に上げる役割を担いたい。                           |
| 佐藤 正樹  | 東京大学大気海洋研究所     | 私は新ジャーナルPEPSの大気水圏科学セクションの編集委員長を勤め、また連合学会で2年間気象学会主催セッションを企画しました。今後は、PEPSの発展や国際セッションの充実を通じ大気水圏科学の発展に努めます。                       |
| 谷口 真人  | 総合地球環境学研究所      | 谷口真人氏は日本地下水学会会長、IAHS国内委員会委員長等を歴任しAGU等でも活躍されています。その経験と知識により、水関連学会とJpGUの関係強化やJpGUの発展に大きく貢献することが期待されます。(筆頭推薦者:小野寺 真一, 推薦者 杉田 文 ) |
| 早坂 忠裕  | 東北大学            | 気候変動の研究、また、地球観測衛星を用いた研究の推進には学問分野を超えた連携協力が不可欠です。JpGUの活動を通じて、地球惑星科学の学術研究が進展するよう微力ながら努力致します。                                     |
| 杉田 倫明  | 筑波大学            | セクションの形が整ってきたところですので、これまでの代議員、セクションボードメンバー、そしてバイスプレジデントの経験を生かして、これがしっかり根付きメンバーの活動に役立つように協力できればと思います。                          |
| 大手 信人  | 京都大学            | 私は陸域生態系における水と物質循環に関する研究を行ってきました。地球惑星科学連合では2012年から代議員を拝命しています。地球科学と生態学をつなぐ研究コミュニティの形成を目指したいと考えています。                            |
| 田中 博   | 筑波大学計算科学研究センター  | 立候補者は、気象学会主催の「新しい大気科学」や「北極域の科学」の初回セッションを立ち上げて、大気大循環研究に貢献してきた。地球惑星連合では代議員として引き続き学生優秀賞を担当したい。                                   |

|       |               |   |
|-------|---------------|---|
| 佐藤 薫  | 東京大学大学院理学系研究科 | 日本学術会議連携会員と気象学会理事を兼務し、これまで大気水圏科学の夢・ロードマップの作成や、大型計画等の仕事に携わってきました。今後も同分野を中心に地球惑星科学の発展に微力を尽くしたいと思っています。  |
| 蒲生 俊敬 | 東京大学          | 海洋の生物地球化学を基盤とする学際的な海洋学の振興に努めます。   |
| 原田 尚美 | 海洋研究開発機構      | 大気水圏セクションを盛り上げるとともに、1期目に引き続いて年齢、ジェンダー、外国人など多様性の高い人材が活躍する学会にしていけるよう努めます。                               |
| 村山 泰啓 | 情報通信研究機構      | 大気水圏セクションボード、国際対応委員会、情報担当理事、ICSU-WDS国際委員など経験を生かしながら、連合運営や会員サービス等に貢献できればと思います。                         |
| 川村 賢二 | 国立極地研究所       | アイスコアを中心に、大気科学、雪氷学、古気候学、古海洋学、第四紀学を含む学際的領域でデータとモデル融合、国際共同の研究をしてきた経験を活かし、連合による多分野連携や国際化に貢献したいと考えています。   |
| 東塚 知己 | 東京大学          | 大気海洋相互作用に関するセッションのコンビーナーとして、同年代の会員とともに分野間の交流に尽力してきた経験を生かし、若手会員により魅力的な大気水圏科学セクションとなるよう貢献していきたいと思っています。 |
| 花輪 公雄 | 東北大学          | 花輪教授は、大学の理事として大学の運営に尽力しており、その経験をもとに日本惑星科学連合の発展と若手研究者の育成大きく貢献していただけるものと期待しています。(筆頭推薦者 大谷 栄治)           |
| 吉田 尚弘 | 東京工業大学        | 自身の研究対象はセクション同様、空間的には海洋底から高層大気、時間的には地球初期から現在に亘る。生物地球化学的な物質循環を軸に、広い分野の研究者の総力を結集するセクション・連合運営に貢献したい。     |
| 沖 理子  | 宇宙航空研究開発機構    | 発見的な基礎研究から、地球環境監視・予測などの応用的研究に至るまで地球惑星科学の発展に不可欠な宇宙からの地球観測について、その利活用の推進や普及、将来の衛星計画に対する学会からの提言等に貢献したい。   |

|        |                         |  |
|--------|-------------------------|--|
| 日比谷 紀之 | 東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻 | 日本海洋学会長としてJpGUとの関係をさらに強化していくとともに、AOGSセッションプレジデントやIAPSO執行委員などの国際経験を活かすことによりJpGUのさらなる発展に貢献できればと思っています。 |
| 北 和之   | 茨城大学                    | 大会運営、財務、災害環境委員会の担当理事として、日本地球惑星科学連合の運営に携わってきました。連合大会の発展や健全運営など、今後も連合と地球惑星科学の発展に、微力ながら貢献していきたいと考えています。 |
| 坪木 和久  | 名古屋大学                   | 大気水圏科学における大気・海洋・陸面についての、航空機観測を含む多様な観測的研究と数値モデルを用いた研究の融合により、基礎過程の理解を深めるとともに、社会に還元できる成果の創出を目指したい。      |
| 伊藤 進一  | 東京大学大気海洋研究所             | JpGUにおける地球システム科学を推進するため、生態系分野との融合を目的とした海洋生態系モデリングセッションを近年連続して開催してきました。今後も気候、物質循環と生態系の融合を進めていきます。     |
| 中村 尚   | 東京大学先端科学技術研究センター        | 地球温暖化や異常気象、環境変動、防災・減災など、大気水圏科学の学問的・社会的重要性が益々高まる中、連合と学術会議との連携を一層強化し、次世代を担う人材育成を図ることに微力を尽くしたい。         |

以上 30名

>>大気水圏科学トップへ戻る

| 氏名 | 所属機関 | 抱負(推薦の場合は推薦文) |
|----|------|---------------|
|----|------|---------------|

[>>トップへ戻る](#)

|         |               |  |
|---------|---------------|--|
| 地球人間圏科学 |               |  |
| 春山 成子   | 三重大学大学院       | 地球人間圏セクションの活動に国際的活動をIGUとの関係も結びつけるとともに理学系・工学系の学問体系とのコラボレーションを積極的に行いたい。また、若手研究者への支援も重要課題としたい。  |
| 佐竹 健治   | 東京大学地震研究所     | 研究対象は世界の巨大地震・津波ですが、2004年インド洋津波を契機としてアジアを中心とする国際交流(AOGSなど)に、東日本大震災を契機として社会の中での科学者の役割(地震調査委員会など)を務めています  |
| 氷見山 幸夫  | 北海道教育大学名誉教授   | 地球人間圏科学は今や地球環境問題や災害に対処する上で不可欠の分野です。それを一層深化発展させ、社会への更なる貢献につなげます。特にICSUが主導する地球環境研究計画Future Earthにしっかりと取組みます。                                   |
| 七山 太    | 産業技術総合研究所     | 日本地球惑星科学連合と地球人間圏科学セクションの国際化のために、尽力いたします。   |
| 近藤 昭彦   | 千葉大学          | “社会の中のリモートセンシング”の実現のため、人の暮らしを中心に環境を認識する“Life Layer Remote Sensing”の地球人間圏科学への位置づけを期待して、RSSJでは近藤昭彦会員を代議員として推薦する。(筆頭推薦者:久世 宏明, 推薦者 桑原 祐史 作野 裕司) |
| 奥村 晃史   | 広島大学          | 奥村氏はこれまでに国際第四紀学会の副会長を2期8年間務めるなど、国際的にも学会の運営に携わってきて、JPGUの発展に大きく貢献していただくことが期待できる人物であると思われまますのでここに推薦致します。(筆頭推薦者 横山 祐典)                           |
| 古谷 勝則   | 千葉大学大学院園芸学研究科 | 私も千葉大学での経験を生かし、JpGUの発展に貢献します。  |



|       |            |   |
|-------|------------|---|
| 島津 弘  | 立正大学       | 地球惑星科学連合における教育検討委員、コンビーナー、地球人間圏セクション幹事の経験や地形学、地理学の専門を活かし、災害、環境、教育への地球人間圏セクションからの情報発信に貢献していきます。          |
| 小口 高  | 東京大学       | 地形学と地理情報科学の研究者として、日本地球惑星科学連合ではGISセッションの開催、連合大会のスペシャルレクチャーなどを担当してきました。次期も引き続き代議員として活動したいと希望しております。       |
| 須貝 俊彦 | 東京大学       | 自然地理学、第四紀地形学を基礎に、環境・防災分野の教育と人材育成に尽力します。地球人間圏セクション幹事・学生優秀賞委員を務めています。                                     |
| 小口 千明 | 埼玉大学       | 深刻さを増す若手～中堅研究者の任期付雇用とキャリア支援について、今後は国際的な見地から比較するとともに、シニア世代で直面する介護問題も含めた研究者ワークライフバランスについて考えていきたいと思っております。 |
| 松本 淳  | 首都大学東京     | PEPSの地球人間圏編集委員長として、引き続き連合の発展のために微力を尽くさせていただきます。   |
| 安成 哲三 | 総合地球環境学研究所 | Future Earth国際科学委員、学術会議Future Earth 委員会委員長などの立場も含めて、地球環境保全と持続可能な地球人間圏の構築に微力を尽くしたい。                      |
| 秋本 弘章 | 獨協大学       | 地理教育を専門としています。様々な災害が頻発する中で、防災教育やESDを核とする地理教育および地学教育の地位向上に努めたいと思っています。                                   |
| 王 勤学  | 国立環境研究所    | 気候変動や土地利用変化に伴う地域環境の脆弱性を評価し、適応策の提言に関する研究を推進する。また、地域環境研究を通して、Future Earthに向けた予測手法の開発や実証実験に関する研究を推進する。     |

以上 15名

>>地球人間圏科学トップへ戻る

| 氏名 | 所属機関 | 抱負(推薦の場合は推薦文) |
|----|------|---------------|
|----|------|---------------|

[>>トップへ戻る](#)

|               |                      |  |
|---------------|----------------------|--|
| 固体地球科学        |                      |  |
| 吉田 晶樹         | 海洋研究開発機構             | これまでの研究・教育・アウトリーチ経験を踏まえ、基礎研究と応用研究に従事する研究者が互いを理解し尊重し合う学界の雰囲気成熟させることで、我が国の固体地球科学の更なる発展と裾野拡大に尽力する所存です。  |
| Rehman, Hafiz | Kagoshima University | If elected, I would like to work for the internationalization of JpGU, to bring more international audience and membership to the JpGU platform and to promote the JpGU activities to international community related to the earth sciences. |
| 浜野 洋三         | 国立研究開発法人海洋研究開発機構     | 連合大会をさらに充実させることで、地球惑星科学コミュニティーの発展に貢献するため、大会開催を支える事務局の体制をより確固としたものにします。   |
| 田所 敬一         | 名古屋大学                | 平成27年度から固体地球セクションボードに参加し、特に地球惑星科学連合大会における学生優秀発表賞の運営に貢献しました。今後も同賞をはじめ連合の運営に貢献して参る所存です。  |
| 入船 徹男         | 愛媛大学                 | 固体地球科学の発展のため努力します。   |
| 田中 聡          | 海洋研究開発機構             | 地球内部科学フォーカスグループの活動を推進することによって、JpGUの国際的な活動に貢献したい。   |
| 古村 孝志         | 東京大学地震研究所            | 地球惑星科学コミュニティーを代表し、国際連携及び社会への情報発信、関連分野の研究発表及び情報交換を行い、学術及び科学技術の振興に寄与する日本地球惑星科学連合の一層の発展のために努力いたします。   |

|        |                              |  |
|--------|------------------------------|--|
| 西山 忠男  | 熊本大学                         | 2016年大会プログラム委員長として、AGUとの初めてのジョイントセッションを成功に導き、2017年のジョイントミーティングへの道筋をつけたい。                             |
| 深畑 幸俊  | 京都大学防災研究所                    | 固体地球科学における分野横断型のセッションを毎年開催しています。地球物理学と地質学と自然地理学の融合を目指して引き続き努力していきたいと思ひます。                            |
| 篠原 宏志  | 産業技術総合研究所                    | 国内学会、国際学会が乱立する中での連合のあり方について、皆様とともに考えて行きたいと思ひます。  |
| 太田 雄策  | 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター | 太田氏はGNSSデータを用いた地殻変動解析および観測を陸域・海域・火山の幅広い分野で精力的に行っている。プログラム委員を経験し、現代議員でもあり、今後の活躍が期待できる。(筆頭推薦者 日置 幸介)   |
| 西村 卓也  | 京都大学防災研究所                    | 西村氏は、2014年よりJpGUの代議員を務めているほか、加盟学協会での活動を積極的に行っており、今後もJpGUへの貢献が期待できる。(筆頭推薦者 日置 幸介)                     |
| 歌田 久司  | 東京大学地震研究所                    | 固体地球科学分野に新しい発展がもたらされるよう、微力ながら力を尽くしたいと思ひます。   |
| 高田 陽一郎 | 北海道大学大学院理学研究院地球惑星科学部門        | 高田准教授は地球ダイナミクス、宇宙測地学、地震学に広い興味と深い知識を持つ研究者で、測地学会ではJPGUのプログラム委員を務めており、代議員として適任である。(筆頭推薦者 日置 幸介)         |
| 鈴木 勝彦  | 海洋研究開発機構                     | 固体地球セクションで活動してきた経験を活かし、連合のさらなる発展に尽くします。地球科学の将来像の議論を深め、専門の異なる研究者の交流を促し、至る所で新しいサイエンスが創造されるような連合を目指します。 |
| 橋本 武志  | 北海道大学                        | 橋本武志さんをJpGU代議員候補に強く推薦します。彼の実行力は固体地球科学分野の発展に大きく貢献すると確信するものです。(筆頭推薦者 歌田 久司)                            |

|       |                         |   |
|-------|-------------------------|---|
| 山口 覚  | 大阪市立大学                  | 山口 覚氏を候補として推薦します。山口氏は現在、地球電磁気・地球惑星圏学会の分科会Conductivity Anomaly研究分科会の幹事を務められており、固体地球分野の代議員として最適な人物と考えます。(筆頭推薦者:大志万 直人, 推薦者 歌田 久司 村上 英記) |
| 道林 克禎 | 静岡大学                    | 広報担当として連合の一般や高校生向けセッション等に貢献して、固体地球科学の面白さを広く伝えることに尽力します。   |
| 岩森 光  | 海洋研究開発機構                | 固体地球科学は、幅広い要素や学問分野からなり、統合科学としての側面がますます求められていると思います。地質学、岩石・鉱物学、地球化学、地球物理学をつなぐ観点から連合の活動に貢献できれば幸いです。                                     |
| 片山 郁夫 | 広島大学大学院 理学研究科 地球惑星システム学 | 固体地球科学のプレゼンスを高めつつ、他セクションとの連携を進め、地球惑星科学の発展に微力ながら貢献させていただきたいと思います。  |
| 大谷 栄治 | 東北大                     | 日本惑星科学連合をますます発展させ、日本から最先端の科学を発信できる組織に、アジアそして世界の地球科学に貢献できる組織にしてゆくために精一杯努力したいと思います。   |
| 木村 純一 | 国立研究開発法人 海洋研究開発機構       | 多分野を統合した固体地球科学研究の推進を、地球惑星科学連合の活動を通じて実現したい。  |
| 井出 哲  | 東京大学                    | 井出氏は地震学分野で世界をリードする研究者であり、地震発生物理に関して革新的な研究成果を多数挙げて来られました。地震学会でも重要な職務を歴任されるなど、JpGUの運営への貢献も大いに期待されます。(筆頭推薦者:古村 孝志, 推薦者 加藤 照之 今西 和俊)      |
| 渋谷 秀敏 | 熊本大学大学院自然科学研究科          | 渋谷氏は、古地磁気・月磁気をはじめ、地球惑星科学全般に幅広い見識を持っておられます。JpGUの運営に、地方大学の声を反映させ、日本の地球科学研究者の層を厚くすることへの貢献が大いに期待されます。(筆頭推薦者 山崎 俊嗣)                        |
| 山田 泰広 | 海洋研究開発機構 掘削科学センター       | 地球惑星科学の発展のため微力ながら貢献できればと思います  |

|               |                      |   |
|---------------|----------------------|---|
| 鍵 裕之          | 東京大学                 | 候補者は地球惑星科学における学際的研究の発展、そして若手研究者の育成に寄与することが期待できる。(筆頭推薦者 大谷 栄治)   |
| 趙 大鵬          | 東北大学                 | 趙大鵬教授は連合大会の国際sessionの運営や国際交流などに大きく貢献していただけることから推薦します。(筆頭推薦者 大谷 栄治)  |
| 林 能成          | 関西大学                 | 林氏は地震学をベースとし、その成果を防災・減災に繋げるために意欲的に活躍している数少ない研究者の一人です。同氏の幅広い知見と類い稀な調整能力を代議員として生かしていただきたく、ここに推薦します。(筆頭推薦者:佐竹 健治, 推薦者 加藤 照之 今西 和俊)   |
| 高橋 太          | 九州大学                 | JpGUの国際的プレゼンスを高めるべく、連合大会の国際化推進に力を注ぎたいと思います。   |
| Wallis, Simon | Nagoya University    | I hope to continue helping develop the international profile of JpGU. The planned joint meeting with AGU in 2017 will be a significant milestone in the development of JpGU, and I hope to contribute to its success.                             |
| Muto, Tetsuji | Nagasaki University  | My primary concern as to JpGU is a somewhat weak interaction between the communities of Earth and planetary surface processes. I would like to make effort to promote the collaboration in EPSP research activities beyond technical disciplines. |
| 隅田 育郎         | 金沢大学                 | JpGUのさらなる国際化、強みとする幅広い分野間の交流による学術的活性化、そしてPEPSの発展に貢献したいと思います。   |
| 成瀬 元          | 京都大学                 | 連合の分野横断的な活動がますます重要になってきていると思います。これまで、私は主に連合の顕彰制度の確立と発展に努力してきました。今後は、広報活動にも一層の協力をさせていただきたいと考えております。  |
| 福田 洋一         | 京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 | 2017年のJpGU-AGU Joint meetingの開催を控え、JpGUの国際的な活動に貢献できればと思います。   |

|        |                      |   |
|--------|----------------------|---|
| 川勝 均   | 東京大学地震研究所            | 固体地球科学・地震学の健全な発展のために貢献する。   |
| 大久保 修平 | 東京大学地震研究所            | 私は学術会議地球惑星科学委員長という立場を踏まえて、地球惑星科学連合と日本学術会議との緊密な連携を通じて、地球惑星科学の研究・教育・社会貢献などさまざまな観点から、微力ながら貢献するつもりです。                                 |
| 下司 信夫  | 産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門 | 地球科学分野において、火山学やマグマ学に関連する諸分野の融合的な研究の促進を推進したいと考えます。   |
| 島 伸和   | 神戸大学                 | 私の研究分野は海洋底地球科学で、分野としての学会がないのですが、JPGUでセッションを立ち上げることにより、この分野の活動が支えられてきました。今後できればJPGUの活動に貢献できればと思います。                                |
| 岡田 知己  | 東北大学大学院理学研究科         | 岡田知己氏は地震学会代議員や日本地球惑星科学連合とパートナーシップにあるEPS誌の編集委員などの重要な職を務めてこられました。その経験と能力を連合代議員として生かしていただきたく、ここに推薦します。(筆頭推薦者:内田 直希, 推薦者 加藤 照之 今西 和俊) |
| 中川 光弘  | 北海道大学                | フィールドワークに基づく固体地球科学分野の発展を通じて、地球惑星科学連合として社会に直接関わる地球の諸問題を理解することを目指します。また連合が自然災害対応や社会教育に貢献できるように努力します。                                |
| 藤田 英輔  | 防災科学技術研究所            | 火山分野において、欧米やアジア地区とのプロジェクトやコンソーシアムの設立等、連携を進めてまいりました。連合の活動においてこれらの知見を活かし、さらなる発展に尽力する所存です。   |
| 木村 学   | 東京大学                 | 来る2年間はAGUとの本格連携を軸に、JpGUの国際化を飛躍させる戦略的に大変大事な時期です。「科学者に国境はあるが科学には国境はない」を旨にJpGU発展のために力を尽くす所存です。                                       |
| 吉田 茂生  | 九州大学                 | 微力ながら、連合の発展のために尽力します。   |

|        |                     |  |
|--------|---------------------|--|
| 岩田 知孝  | 京都大学防災研究所           | 岩田知孝氏は長年精力的に強震動地震学の研究及び教育を行って来られ、大きなプロジェクトの代表を務められるなど多くの成果を挙げておられます。強震動予測に関わる広い分野での貢献が大いに期待されます。(筆頭推薦者:香川 敬生, 推薦者 古村 孝志 加藤 照之)     |
| 亀 伸樹   | 東京大学                | 亀氏は地震発生物理に関する理論モデル・数値計算手法に関する多くの業績があり、若手の育成にも意欲的です。固体地球科学の発展に向けての活躍が期待できます。(筆頭推薦者:望月 公廣, 推薦者 加藤 照之 今西 和俊)                          |
| 山岡 耕春  | 名古屋大学               | 山岡耕春氏は、地震・火山現象についての見識が深く、且つ、理学的な分野に加えて防災・減災分野でも活動の幅を広げられており、日本地球惑星科学連合の今後の発展に対して、貢献が大いに期待されます。(筆頭推薦者:加藤 愛太郎, 推薦者 加藤 照之 伊藤 武男)      |
| 松澤 暢   | 東北大学                | 私が適切な人材かどうかは、はなはだ自信はありませんが、もし、選ばれたなら、JpGUの発展のために努力したいと思います。  |
| 山崎 俊嗣  | 東京大学大気海洋研究所         | 地球惑星科学研究コミュニティのために働く所存です。学会等での役員経験を生かされればと思います。  |
| 久家 慶子  | 京都大学大学院理学研究科地球物理学教室 | 久家氏は、地震学に関する幅広い一級の研究成果を発表するとともに、地震学に関するアウトリーチ活動にも関わっている。この他、地震学会の理事の経験もあり、JpGUが求められる幅広い活動への貢献が期待できる。(筆頭推薦者:堀川 晴央, 推薦者 加藤 照之 平松 良浩) |
| 西村 太志  | 東北大学                | 地震学および火山学を中心として、固体地球科学領域において、専門分野の深化のみならず、分野間が融合し発展できるよう尽力したい。   |
| 阿部 なつ江 | 国立研究開発法人海洋研究開発機構    | 自然災害が多い日本において、地球惑星科学研究者の果たすべき役割は非常に大きい。世界に誇る研究システムを構築するためにも、若手女性研究者を支援する為にも、代議員として貢献したいと考えた次第。                                     |

以上 51名

>>固体地球科学トップへ戻る

| 氏名 | 所属機関 | 抱負(推薦の場合は推薦文) |
|----|------|---------------|
|----|------|---------------|

[>>トップへ戻る](#)

|        |                   |  |
|--------|-------------------|--|
| 地球生命科学 |                   |  |
| 小林 憲正  | 横浜国立大学            | 現在のところ、地球生命科学セクションはメンバー数が少ないですが、学際的なセクションですので、周辺領域からのメンバーを増やし、セクションの活性化につなげたいと思います。                  |
| 北村 晃寿  | 静岡大学              | 微力ながら、地球科学、とりわけ古生物学と第四紀科学の進展に貢献したい。  |
| 西 弘嗣   | 東北大学 学術資源研究公開センター | 予算の削減など地球惑星科学分野にとっても厳しい状況が続いています。AGUとの合同開催など多くの懸案があると思いますが、今後も地球惑星科学の発展のため貢献させていただきたいと思います。          |
| 川幡 穂高  | 東京大学 大気海洋研究所      | 地球の大きな特徴に生命・人間の存在があります。地球生命、人間圏、大気水圏、固体地球、惑星科学の知識を深化、発展、融合して、日本地球惑星科学連合とともに新しいパラダイムに到達すべく努力したいと思います。 |
| 大河内 直彦 | 海洋研究開発機構          | 再度がんばらせていただきます。よろしくお願いいたします。   |
| 高野 淑識  | 海洋研究開発機構          | ぜひ良い地球生命科学コミュニティを形成して参りましょう。   |
| 井龍 康文  | 東北大学大学院理学研究科地学専攻  | 日本地球惑星科学連合の代議員として、またPEPS総編集長として、日本の地球惑星科学の発展に尽力したいと思います。   |



|       |                  |  |
|-------|------------------|--|
| 掛川 武  | 東北大学             | 生命起源、初期地球環境、アストロバイオロジーがますます栄え国際化するように頑張ります。  |
| 鈴木 庸平 | 東京大学大学院理学系研究科    | 地球惑星科学の発展のため、近年発展の著しい分子生物学的なアプローチやナノテクノロジーを駆使してフロンティアの開拓に挑みます。                                       |
| 遠藤 一佳 | 東京大学             | 地球惑星科学は、物理学、化学とは比較的連携が進んでいますが、生物学との連携はまだまだこれからです。私はこれまでの経験と人脈を活かして、地球生命科学の発展、国際化に微力を尽くしたいと考えています。    |
| 高橋 嘉夫 | 東京大学大学院理学系研究科    | 地球惑星科学の中でも、モノをじっくり観察・分析することで積み上げていく科学の重要性を訴えていきたい。またいい研究をしている日本の科学者がもっと世界からみえるようにという点で、JpGUの発展を図りたい。 |
| 高井 研  | 海洋研究開発機構         | 私は、日本の地球生命科学の一つの道を切り開いてきたという自負があります。また少なからずそのような人材の成長を手助けできたという自負もあります。次はより大きな潮流を生み出す原動力になりたいと思います。  |
| 狩野 彰宏 | 九州大学             | 地球生命科学に関連する各分野のハブ役として新たな研究領域を創出するとともに、若手研究者の育成につくします。  |
| 布浦 拓郎 | 国立研究開発法人海洋研究開発機構 | 海洋水塊・表層堆積物・海底下生命圏・熱水環境等々、海洋を中心とした幅広い環境における微生物生態研究を進めてきました。これらの経験を活かし、異分野間の共同・融合プロジェクトの推進に貢献したく思います。  |

以上 14名

>>地球生命科学トップへ戻る

| 氏名 | 所属機関 | 抱負(推薦の場合は推薦文) |
|----|------|---------------|
|----|------|---------------|

[>>トップへ戻る](#)

|          |                     |   |
|----------|---------------------|---|
| 地球惑星科学総合 |                     |   |
| 矢島 道子    | 東京医科歯科大学教養部         | 地学教育の振興のために働きます。  |
| 阿部 國廣    | 認定NPO法人自然再生センター     | 地球惑星科学教育(地学)を学校教育に定着させるために頑張ります。学習指導要領改訂に向けて連合から積極的に意見、提言を出すために、教育検討委員会の活性化を図ります。                     |
| 佐野 有司    | 東京大学 大気海洋研究所        | 候補者は宇宙から海洋にいたる幅広い研究対象にわたり優れた研究業績を示す地球化学者であることから、地球惑星科学総合セクションで重要な役割を果たすことが期待される。(筆頭推薦者 高畑 直人)         |
| 瀧上 豊     | 関東学園大学              | 地学オリンピック事業をとおして、地球科学教育の推進に寄与します。  |
| 片山 直美    | 名古屋女子大学 家政学部 食物栄養学科 | 宇宙生理学と宇宙農業・宇宙食を20年研究してきました。宇宙について考えることは地球について考えることになります。宇宙に興味を持っていただくことが出来る大変貴重な機会ですので、微力ですが立候補いたしました |
| 宮嶋 敏     | 埼玉県立深谷第一高等学校        | 高等学校の全ての生徒が地球惑星科学の基礎的な内容を学ぶことを目指して、今までのJpGUの委員会活動の経験を生かして尽力します。                                       |
| 熊谷 英憲    | 海洋研究開発機構            | 地球惑星科学的知見を社会に活かす方途について、観測や測定といった確かな根拠に基づく姿勢を大事にして、教育とくに中等教育へ地学オリンピックを通じて貢献したいと考えています。                 |

|       |                    |   |
|-------|--------------------|---|
| 飯田 佑輔 | 宇宙航空研究開発機構/宇宙科学研究所 | 前任期では、JpGU-NASA-JAXA共同展示を中心にサポートしてきました。当該展示の一層の拡大を通じた国際協力関係の推進、また地球科学研究の周知に努めていきたいと思っております。                       |
| 山岸 明彦 | 東京薬科大学             | 地球生命科学、特に微生物や宇宙探査、生命の起原や進化研究など、地球惑星科学の発展のために、日本地球惑星科学連合に貢献したいと思っております。  |
| 小田 啓邦 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所  | 日本地球惑星科学連合と地球惑星科学の発展に微力ながら貢献させていただきたいと思っております。  |
| 畠山 正恒 | 聖光学院中学校高等学校        | 学校教育を中心として、地球惑星科学教育を学べる教育環境を充実させるために尽力します。  |
| 横山 広美 | 東京大学大学院理学系研究科      | 横山広美氏は、科学コミュニケーションがご専門で、日本地球惑星科学連合の代議員・広報普及委員として地球惑星科学の広報普及に貢献されてきました。今後も引き続きご尽力いただけるよう、ここに強く推薦致します。(筆頭推薦者 田近 英一) |
| 小林 則彦 | 西武学園文理中学高等学校       | 教育の立場から地球惑星科学に関する市民リテラシー普及を目指し、連合の力になれるよう努力したい。   |

以上 13名

[>>地球惑星科学総合トップへ戻る](#)